

はじめよう経済学⁺*Plus*

第5講 自由貿易

講師：加藤 真也

今回(第5講)は…

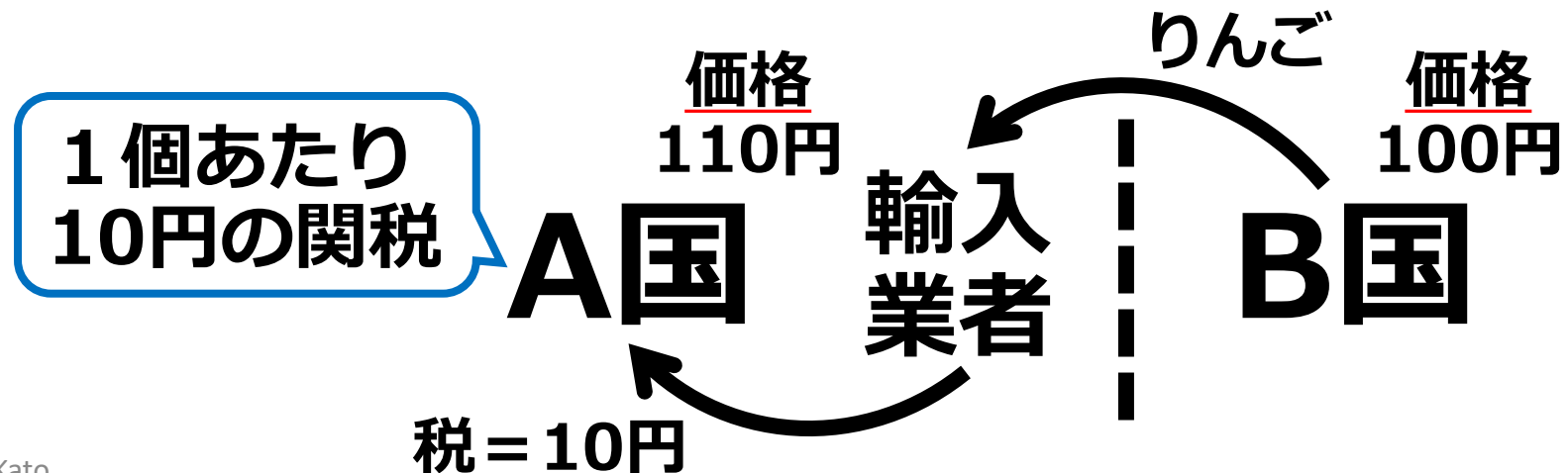
- 自由貿易の余剰分析
- 関税の余剰分析
- 比較生産費説

自由貿易

：政府による規制のない貿易

保護貿易

：関税など政府の規制がある貿易

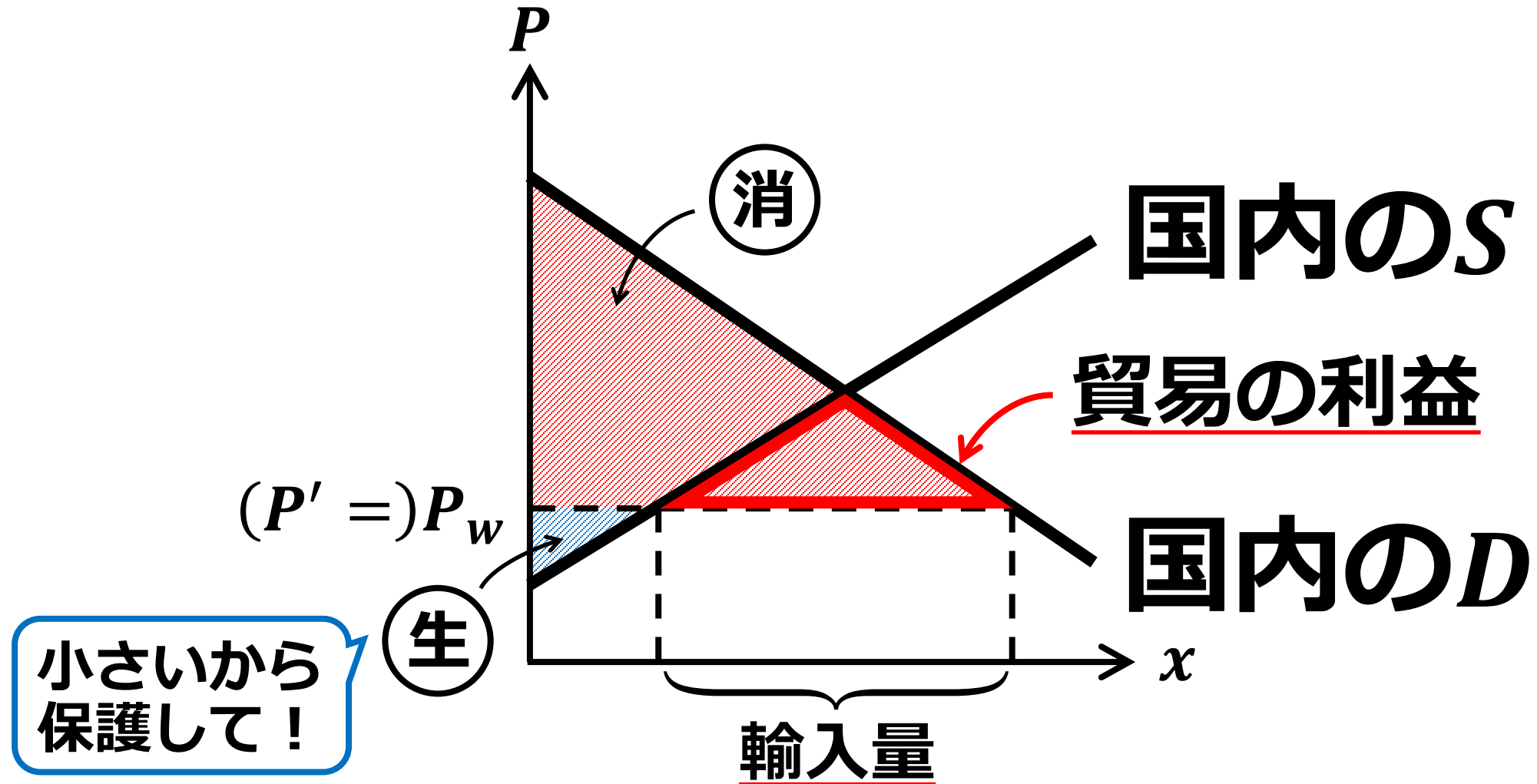


小国の仮定

： 自国(小国)のDやSは
国際価格 P_w に影響を与えない
world

国内で実現する価格(国内価格)
を P' とおく

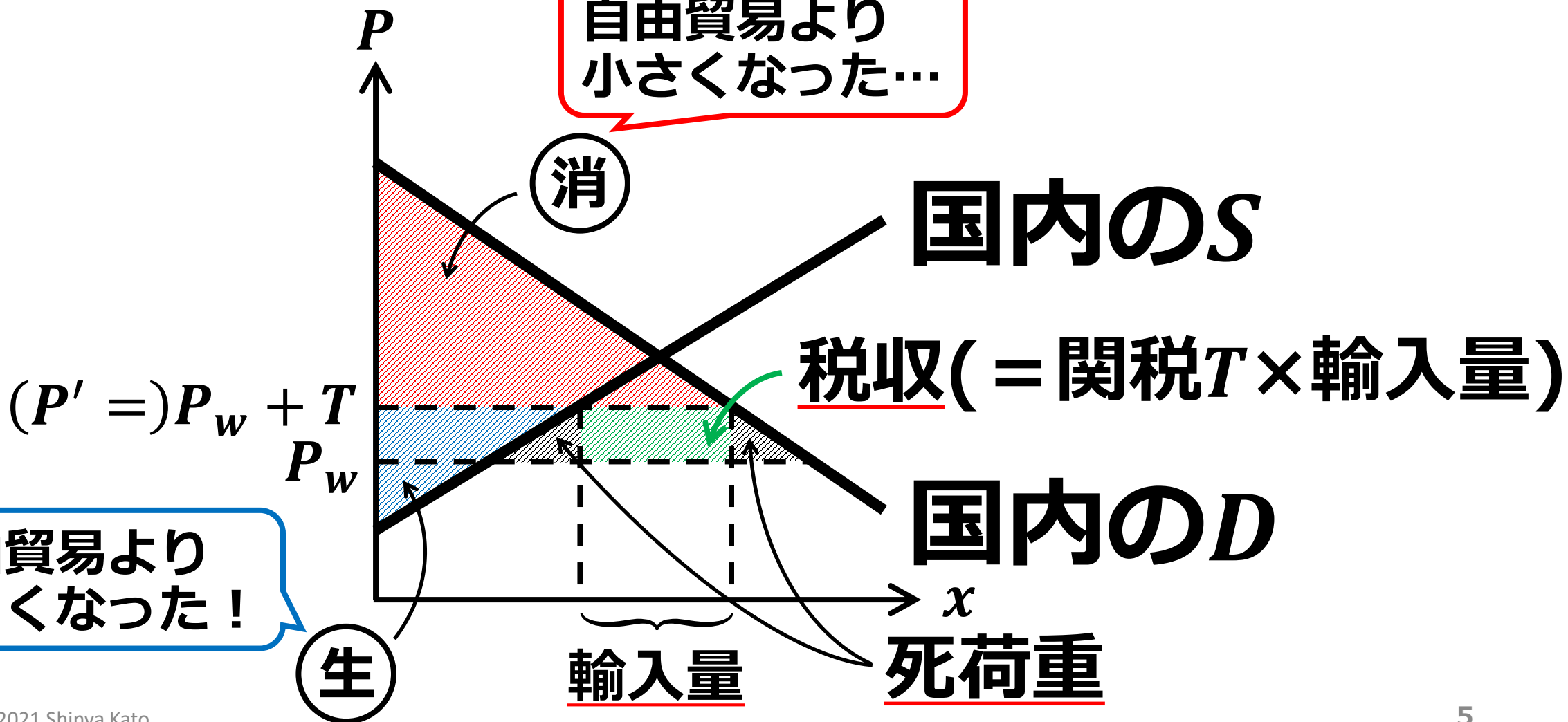
自由貿易



関税

輸入品 1 個あたり T 円

自由貿易より
小さくなった...



自由貿易より
大きくなった!

ポイント

自由貿易で総余剰↑

関税は自由貿易より総余剰↓

イギリスの経済学者
1772 - 1823年

比較生産費説 by リカード

「生産技術の違いが貿易パターン
を決める」

何を輸出し、
何を輸入するか

貿易は双方の国にメリットがある

投入係数

(例) 労働

: 1つ生産するのに必要な生産要素の量

投入係数	車(台)	小麦(トン)
A国	10人	5人
B国	2人	4人

A国では5人で小麦1トン作れる

絶対劣位

「B国は車と小麦に絶対優位をもつ」

投入係数の比

A国で車1台を作ることは、小麦2トンの生産を諦めることを意味する
(A国で車1台を作る費用は、小麦の量で換算すると2トンである)

	車(台)	小麦(トン)
A国	10人 → $\frac{10}{5}$ トン	5人 → $\frac{5}{10}$ 台
B国	2人 → $\frac{2}{4}$ トン	4人 → $\frac{4}{2}$ 台

「A国は小麦、B国は車に比較優位をもつ」

ポイント(比較生産費説)

- 比較優位をもつ財に完全特化し、
その財を輸出する 一つの財だけを生産すること

⇒ A国は小麦、B国は車を輸出する

- 一方の国が両財で比較優位をもつことはない

(投)	車	小麦
A国	a	b
B国	c	d

➔

(比)	車	小麦
A国	a/b	b/a
B国	c/d	d/c

$$\frac{a}{b} > \frac{c}{d} \Rightarrow \frac{b}{a} < \frac{d}{c} \quad 10$$

数値例

投入係数	車	小麦	労働人口
A国	10人	5人	30人
B国	2人	4人	12人

貿易前

	車	小麦
A国	2台	2トン
B国	2台	2トン

生産量 = 消費量

貿易後

貿易は双方の国にメリット

	車	小麦	貿易	車	小麦
A国	0台	6トン	➔	3台	3トン
B国	6台	0トン		3台	3トン

生産量 消費量

貿易発生条件

X財の価格は
Y財1.5こ分

比較生産費

車 (X財)

小麦 (Y財)

$$\frac{1}{2} \leq \frac{P_x}{P_y} \leq 2$$

例 3

例 2

A国

$\frac{10}{5}$ トン

$\frac{5}{10}$ 台

B国

$\frac{2}{4}$ トン

$\frac{4}{2}$ 台

この条件を満たすと、
A国は小麦、B国は車を輸出する

応用例(比較生産費説)

A国 = 部下

B国 = 上司

車の生産 = 企画書作成

小麦の生産 = 営業アポ取り

すべての面で上司に絶対優位があっても、
分業は上司・部下の両者にメリットがある

次回(第6講)は…

- ・ マクロ経済学に入ります
- ・ AD-AS分析を学びます
- ・ AS曲線を導出するために
必要な労働市場を学びます